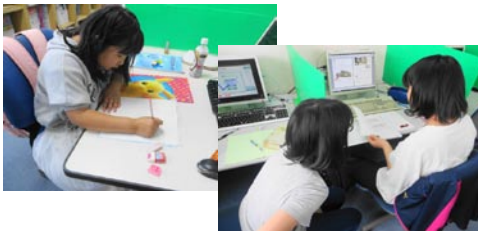
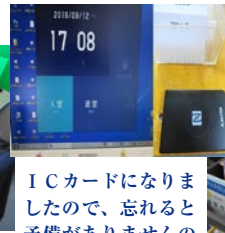




9/3 中3生の学力Aテスト対策



9/28 第3回計算特講の様子



長い間、正常に動作していなかった入退室のシステム、新しいシステムでやっと正常になりました。

I Cカードになりましたので、忘れると予備がありませんので塾で保管します。

小学3年生と中学2年生の学習の様子



定期テストに向けて勉強する高校生達。普段の取り組みが重要で、当然ですが塾に来る回数が多い人が結果の出せる人です。目標があるならやらないとダメです。

『追悼 福士先生に捧げる』
9月19日、大栗毛中学校教頭の福士民朋子先生が亡くなりました。わずか48歳という若さでした。長い間、富原中学校で教鞭を執り、今年の春に大栗毛中学校の教頭先生として赴任したばかりで、それから半年しか経っていませんでした。在校生や卒業生からは優しくて、だれにでも平等に接してくれる、すべての生徒、父母の方々に信頼される先生でした。そして行動力があり、中体連ではどの会場へ行っても福士先生の姿がありました。授業だけではなく、部活のことにまで気を配り、常に生徒の支えとなっていました。福士先生に出会った数多くの生徒や卒業生たち



26期生で高専生の田中君、ヤマダ電 25期生で帯広畜産大生の牛木さんが24期生の北見看護大の富岡さんと藤 22期生で、高専から豊橋技術科学大機でアルバイト中。差し入れ持って！入学後、初めて近況報告にきてくれた。女子大の佐藤さんと蕎麦屋さんで



21期生の石川さん、大学卒業後、銀 17期生的小林君、苦節 27年、警察 6期生の岩瀬君、念願のキャンピングカーを購入し、見せに来ました。



21期生の石川さん、大学卒業後、銀 17期生的小林君、苦節 27年、警察 6期生の岩瀬君、念願のキャンピングカーを購入し、見せに来ました。



21期生の石川さん、大学卒業後、銀 17期生的小林君、苦節 27年、警察 6期生の岩瀬君、念願のキャンピングカーを購入し、見せに来ました。

は、家庭科教師としての情熱を注いだ福士先生の作りの作品なのかもしれません。それを完成させるのは先生の意思や精神を受け継ぐ、卒業生自身なのではないでしょうか。家族の方はもちろんのこと、私たちも含めて大勢の人がショックと深い悲しみを感じています。塾の卒業生からも思い出や思いの言葉を送ってらっしゃいますので紹介します。塾長からの連絡で福士先生のご逝去を知り、驚きとともに深い悲しみで一杯です。中学生時代は、先生と言うよりはお母さんのように優しく私たちに接してくださいとも感謝しております。ご冥福をお祈りいたします。 栗野秀哉(27)



21期生の石川さん、大学卒業後、銀 17期生的小林君、苦節 27年、警察 6期生の岩瀬君、念願のキャンピングカーを購入し、見せに来ました。



21期生の石川さん、大学卒業後、銀 17期生的小林君、苦節 27年、警察 6期生の岩瀬君、念願のキャンピングカーを購入し、見せに来ました。



21期生の石川さん、大学卒業後、銀 17期生的小林君、苦節 27年、警察 6期生の岩瀬君、念願のキャンピングカーを購入し、見せに来ました。



21期生の石川さん、大学卒業後、銀 17期生的小林君、苦節 27年、警察 6期生の岩瀬君、念願のキャンピングカーを購入し、見せに来ました。

そうだったんですね。とても残念でショックです。福士先生のように凛とした家庭科教諭目指してこれからは頑張ります。先生のご冥福をお祈りします。 廣谷玲(26) 廣谷さんは、福士先生に憧れ教師を目指し、現在は道南北斗市の農業高校の教師です。 福士先生は生徒みんなにすごく好かれていた先生だったので、みんな悲しくショックだと思います。先生のご冥福をお祈りします。 新田智徳(26) 福士先生のご逝去を知り、驚きとともに深い悲しみで一杯です。先生の授業はユーモアに満ちて楽しかっただけでなく、分かりやすい授業で毎回楽しめました。授業以外の面でも様々なことを教えていただきました。みんな大好きな先生でした。卒業してからお会いできなかったことが悔やまれます。もう先生のお姿を拝見することはできないと思うと、言葉では言い表せない気持ちでいっぱいです。 福士先生、親身なご指導と、たくさんの温かい思い出をありがとうございます。先生のご冥福を、心からお祈り申し上げます。 織田幹史(26) 塾長から聞いたとき、驚きで言葉も出ませんでした。わたしはいつでも笑顔だった福士先生の姿しか想像できません。いつも、書道で賞をとったとき「おめでとう」と言ってくれる先生が大好きでした。いつも楽しくて面白い授業をしてくれて本当にありがとうございました。 福士先生のご冥福をお祈りします 佐藤由佳(20) 私が中学生だった頃、先生にはとてもお世話になりました。私達の代も二十歳になり、来年度成人式を迎えます。同窓会で福士先生と再会し、お話しできると思っていたので、突然の訃報に驚き、このような形で先生のことをお話しすることになりとても悲しく寂しい思いです。福士先生はいつも明るくて元気で楽しい先生でした。私も他の生徒も先生のご冥福をお祈りします。 富岡茉紘(20) 「最初は実感が湧かなかったけど、だんだん理解してきたら悲しくなって、バイト中、泣きながら書いてきた」そうです。 福士先生には本当に昔からお世話になり、いつも相談事を優しく聞いてくださり、私も私の妹もとても感謝しています。

福士先生の最後まで諦めない姿は本当に素敵でした。福士先生から学んだことをこれからも大切にしていきたい、教える子として恥のない一員となっていけるよう頑張っていきます。 成瀬京(19) 福士先生は私にとって第二の母でした。私の暗かった中学校生活を助けてくれて、どの先生よりも福士先生が一番私を理解してくれ寄り添ってくれていました。その先生の最後にありがとうを直接言えなかったのが今ではとても後悔しています。ですが、この後悔を無駄にしないように私は大切な人にはありがとうを伝えることを福士先生から教わった気がしました。 成田くるみ(16)

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火
				休塾		★付属3年定期テスト			即位礼正殿の儀 休塾		休塾		★第2回漢字検定				休塾	休塾			★学力Bテスト				休塾	学力Bテスト対策			★鳥取定期テスト	

一目に一度はR-GROUPの確認をお願いします。

センター試験まであと103日

公立高校入試まであと156日

■ 10月の予定 ■

ストップ 過保護・過干渉！

公立校でもここまでできる学校改革

麹町中の工藤校長が目指す「現代の寺子屋」とは

東京・千代田区立麹町中、工藤勇一校長の学校論



全国の教育関係者から注目を浴び、見学者がひきもきらない中学校がある。東京の真ん中、国会議事堂から徒歩10分ほどで着く千代田区立麹町中学校だ。工藤勇一校長(58)の進める「学校改革」は、公立中学校でここまでできるのかと思うほど大胆である。社会で生きていく「力」をどう身につけさせるか。人工知能(AI)が

発達していく中、麹町中の改革は今後の教育に必要なヒントが詰まっているように思える。(朝日新聞編集委員・山脇岳志=写真も)

最初に工藤さんに会ったのは、今年6月に開かれた教育NPO「FutureEdu Tokyo」(竹村詠美、吉川まりえ共同代表)主催の公開討論会でのこと。その会場が麹町中学校だった。

パネリストの一人としても登壇した工藤さんは、「今の学校教育の問題は、学習指導要領を神様のように敬っていること」と発言した。公立校の校長らしからぬ歯に衣着せぬ物言いに、思わず身を乗り出した。「学校の宿題や定期テストを全廃」「固定担任制もやめた」と聞いて、さらに驚いた。公立中でそんなことができるのか。

民間出身の校長なのかと思ったが、経歴を調べてみたらそうではなかった。2014年に校長として麹町中に赴任する前は、新宿区や東京都の教育委員会でも働いていた。興味をもって学校に通い、改革の狙いやその原動力について話を聞いた。

■学校は「社会に出るため」にある

工藤さんに話を聞いて、最大の特徴だと感じたのは、学校の目的や存在意義を明確にし、公言していることだ。

「何のために学校があるのか。私の答えはシンプルです。子どもたちが社会の中で生きていくためだ、と思っています。学習指導要領をこなすためや、暗記してテストで良い点を取るために学校があるわけではない」

工藤さんが学校を社会への準備と位置づけている背景には、人工知能(AI)の発達などで人間の職が失われていく変化が激しい時代だからこそ、生き抜くための「ソフトスキル」を身につけさせたいという発想がある。

コンピューターソフトを自在に使いたり、プログラミングができたりといったスキルは、「ハードスキル」と言われる。

それも大事ではあるが、他人と協力しながら課題を解決する能力、リーダーシップといった「ソフトスキル」が、AI時代にますます重要になっている。工藤さんは、世間に対してわかりやすくするために、目指すべき中学像として「現代の寺子屋」という言葉を使っている。経済活動やコミュニケーション活動の学びを基本とした江戸時代の寺小屋のような学びの場が今、改めて必要だと感じているのだ。

ソフトスキルを学ぶには学校を閉鎖的にしないことが肝心だ。「学校が社会からかけ離れた存在にならないように」と、授業のカリキュラムやアフタースクールなどを通じて、民間企業の社員や研究者、大学生など外部の人、多様な人材と触れ合える機会を積極的に作っている。

例えば、NTTドコモや大和ハウスなど大手企業の協力を得て、模擬的なインターンシップを導入している。各企業から具体的なミッションをもらい、企画力を磨くのが狙いだ。

また、さまざまなジャンルで活躍している専門家に「特別講義」をしてもらっている。これまでに脳科学者、経営コンサルタント、カメラマン、シェフなどが講義をした。実際に生徒に感想を聞いてみたら、面白かった講義として、日本マイクロソフト勤務でプレゼンテーションの指導で定評のある澤円さん、フリーアナウンサーの赤平大さんなどの名前が挙がった。

アフタースクールでは、部活動やサークルのほかに「麹中塾」があり、東大や東京理科大、上智大の学生が実際に勉強を教えてくれる。アナウンスやプログラミングなどを学ぶサークルもある。

■「プロジェクトを提案せよ」

修学旅行も一味違う。「ツアー企画取材旅行」と称し、大手旅行会社と連携し、生徒たちがツアー企画を提案する形にしている。生徒は、出発前に旅行会社の社

員から「出前授業」を受け、現地取材のコツを学び、実際に訪れた京都などで取材して、情報を集める。旅行から戻ると、再び社員からパンフレットの作り方などを学び、最後にプレゼンを行う。こうして、生徒発案のツアー企画ができあがる。

麹町中は昨年、70周年を迎えた。かつては「番町小→麹町中→日比谷高→東大」が典型的なエリートコースとされ、麹町中は「公立の名門校」と称された。近年は中学受験で私立高を選ぶ学生が増え、目標の私立や中高一貫の公立中学に合格できず、挫折感を抱いて麹町中に来る生徒も少なくはない。

そうした学生が中学2年の2泊3日の合宿のあたりから、自信を持ち、大きく変わっていく光景がみられるという。この合宿は「スキルアップ宿泊」と名付けられ、企業や大学の協力を得て、与えられたミッションの企画を練り、プレゼンを行う。その過程で、ブレインストーミングやKJ法など実際のビジネス現場でも使われているさまざまな思考ツールを学び、さまざまな対立を経験し、解決策を探る。昨年のミッションは「2020年、東京オリンピック後のハッピープロジェクトを提案せよ」だった。

■「大人ってけっこう素敵」が原動力になる

「学校は生徒たちにとってこれから生きていく社会を象徴するもの」だと考える工藤さんは、生徒たちに実際の社会を疑似体験させ、「世の中まんざらでもない。大人って、けっこう素敵だ」と思ってもらえるのが願いだという。

先行きが不透明な時代、信頼できる大人も大勢いて問題を解決に向けて努力しているという確信を持ってこそ、生徒たちは希望をもって前に進むことができる。学校を外部に開き、ロールモデルになるような社会人や学生との触れあいが、生徒に刺激を与え、将来を考えるきっかけになるのではないかと、考えている。

■宿題は自律を失わせる

麹町中の3つの目標は、「自律」「貢献」「創造」。その中でも、特に「自律」の重要性を掲げる。これからの変化の激しい社会を生き抜くには、自分で問題を解決し、乗り越えていく力とスキルが欠かせないからだ。

2014年度に着任以来、宿題は徐々に減らしてきたが、今年度からついに「全廃」したのは、「宿題はできる子にとっては時間の無駄、できない子にとっては重荷になる。宿題を出し続けると、子どもたちが自律の精神を失う」と考えたからだという。毎学期の中間、期末といった定期テストをなくしたのも、同様の理由からだ。本来、テストは生徒自身が自分の学力を把握して、勉強を続けていくために行うべきものなのに、生徒は定期テストのために知識を詰め込み、その後は忘れてしまう。そもそも、定期テストは生徒のためではなく、生徒を評価する教師のための仕組みになっているのでは、と感じたという。

麹町中では、定期テストを廃止した代わりに、各教科ごとの単元テストを頻繁に行い、授業で学んだことが定着しているかどうか自分でわかるようにした。テストの点数が悪かった生徒は、希望すれば再びチャレンジでき、点数が上がれば、成績に反映される。

出題範囲を定めない実力テストも年5回、実施している。ただし、結果は成績には反映されない。自分の学力向上の判断材料にしてもらうのが目的だ。実力テストを成績に反映してしまうと、またその対策として暗記に走りがちなためだ。この方法だと、付け焼刃の勉強方法では、いい成績がつかない。社会人になってからも仕事で一夜漬けをしている人も多いと思うが、「学生時代、定期テストに向けて、一夜漬けを繰り返したことに原因があるのではないですか」と工藤さん。いつも原稿の締め切りが迫らないと腰を上げない私も、ギクリとした。

麹町中では他にも、生徒の自律に向けて、自己管理のツールを教える場なども設けている。新入生にはビジネス手帳を使ったスケジュール管理法、ノートの取り方などについてもかなりきめ細かく指導している。ただ、こうした方法を取り入れるかどうかは、生徒の自主的な判断に任せている。

「教育に限らないが、日本では、手段が目的化して、なかなか変革できないケースが多い。目的を達成するために手段があるはず。まずは学校が変わらないといけない」と工藤さんは言う。

学校では当たり前の「固定担任制」まで廃止した。その代わりに導入されたのが「全員担任制」である。クラスの担任は週ごと、ときには日替わりで代わり、生徒は面談の時は相談相手の先生を自由に選ぶことができる。本来、担任が受け持つ道徳や総合学習なども適任者を選ぶ形にしている。他にも、職員会議の時間短縮など、工藤さんが実現した改革は多い。

こうした改革に対して、千代田区の教育委員会からクレームがついたことは一度もないという。工藤さんは「定期テストの実施、固定担任制などは、文部科学省などがルール化しているのではない。長年の慣習として続いているだけ。公立の学校でも、改革しようと思えばできることは多い。個々の学校の裁量は意外に思えるほど大きい」と話す。朝日新聞 GROBE + グローバル教育考から



「全員が、みんな違っていい、ということを受け止めること。それが大事だと思っている」